

事務事業チェックシート

事務事業No 248 事業名 高齢者保健福祉振興大会開催事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		民生費	
	項		社会福祉費	
	目		老人福祉費	
	大事業		老人福祉事業	
	事項		高齢者保健福祉振興大会開催事業	

[長期総合計画]

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	2	高齢者・障害者支援の充実
施策	1	高齢者の生活の充実
基本方針	2	高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標		
政策		
施策		

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間		～	永年
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	高齢者・地域福祉課	佐々木 忍	435-1063
関連課			

[3つの約束・44の約束]との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

	事業目的(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)	事業内容				
事業概要	高齢者が生涯を健康で生きがいを持って社会活動できるよう振興大会を開催し、知識の向上、生きがい等を深める。	市長・和歌山市老人クラブ連合会長・和歌山市社会福祉協議会長から、功績のあった高齢者の方々に対して、表彰状の授与を行う。また、同時に健康・生きがい創出を目的とした講演会を同時に開催する。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		地域住民から親しまれ尊敬されている者を、模範老人として市長から表彰することで、高齢者の目標が生まれる。また、講演会では、長寿社会をめぐる問題を、すべての人々が自分自身の問題として認識してもらう。	地域住民から親しまれ尊敬されている者を、模範老人として市長から表彰することで、高齢者の目標が生まれる。また、講演会では、長寿社会をめぐる問題を、すべての人々が自分自身の問題として認識してもらう。	地域住民から親しまれ尊敬されている者を、模範老人として市長から表彰することで、高齢者の目標が生まれる。また、講演会では、長寿社会をめぐる問題を、すべての人々が自分自身の問題として認識してもらう。	地域住民から親しまれ尊敬されている者を、模範老人として市長から表彰することで、高齢者の目標が生まれる。また、講演会では、長寿社会をめぐる問題を、すべての人々が自分自身の問題として認識してもらう。	地域住民から親しまれ尊敬されている者を、模範老人として市長から表彰することで、高齢者の目標が生まれる。また、講演会では、長寿社会をめぐる問題を、すべての人々が自分自身の問題として認識してもらう。

2 事業コスト

事業費等 千円		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
	事業費	676	605	641	600	643	601	590	590	590	590
	伸び率 (%)	-	-	-5.2%		0.3%		-8.2%		0.0%	
	人件費	常勤職員	2,692	2,604	2,604	2,612	2,604	2,201	2,604		
		非常勤職員	0			340					
		小計	2,692	2,604	2,604	2,952	2,604	2,201	2,604		
	国庫支出金										
	県支出金										
	市債										
その他											
一般財源(税等)	676	605	641	600	643	601	641				
所要人数	常勤職員	0.36	0.35	0.35	0.34	0.35	0.3	0.35			
	非常勤職員	0.00			0.16						
主な予算内訳											

3 目標及び実績

	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
活動指標	表彰者数				年度目標値					
					実績値					
	単位	人	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度					
					年度目標値					
成果指標	入場者数				年度目標値	600	600	600	600	600
					実績値	600	600	600		
	単位	人	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%		
					年度目標値					
					実績値					
	単位		全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	自ら健康の増進を図り地域社会において福祉向上に貢献されてる方を表彰し、その功労に報いる事業のため
「見直し」 「改善」案	